

# 芥川（大阪府高槻市）におけるカダヤシとメダカの現状

○浅永 梨紗<sup>1</sup>・花崎 勝司<sup>2</sup>・近藤 茂則<sup>1</sup>

（<sup>1</sup>大阪コミュニケーションアート専門学校、<sup>2</sup>芥川緑地資料館）

## 背景・目的

カダヤシはカダヤシ目カダヤシ科に属する北アメリカ原産の淡水魚である。日本には、1916年に蚊の幼虫であるボウフラの駆逐を目的として移入され、現在では日本国内の各地に定着している。本種は形態や生息環境が類似しているメダカの生息域を奪ったりその他の国内種の卵や稚魚を捕食し河川の生態系に悪影響を及ぼしていることが指摘されており、特定外来生物に指定されている。

芥川における本種の採集記録は、高槻公害問題研究会（1979）や平松ら（1998）によるものがあるが、その記録個体の体長や個体数などについては言及されていない。

そこで、芥川下流域における本種の生息状況や体長などを把握することを目的に、調査を行ったのでここに報告する。また、同調査において採集されたメダカとの関係についても若干の考察を試みる。

## 調査場所・期間・方法

芥川の中流～下流およびその周辺水路と一支流の女瀬川を調査対象区域とした。

調査は2012年7月下旬～11月上旬に行った。方法は1地点につき15分間タモ網（目合い2mm）による採集を行った。採集物は現地で10%ホルマリン溶液にて固定し、芥川緑地資料館に持ち帰って種の同定・雌雄判別・体長測定などを行った。

## 結果と考察

調査を実施した21地点のうち、4地点（2水域2水路）でカダヤシの生息を確認した。メダカは5地点（4水域1水路）で生息を確認した。カダヤシとメダカの両種を共に採集した水域は2地点（2水域）であった。採集された総個体数は、カダヤシは52個体（体長7.7～29.4mm）で、メスが22個体、オスが18個体、雌雄不明12個体、メダカは55個体（体長10.6～30.4mm）で、メスが22個体、オスが21個体、雌雄不明14個体であった。採集したカダヤシのうち4個体は産仔に近いと考えられる仔魚が確認され、これら仔魚は尾部を丸めた球状であった。29.1mmのメス個体から確認された仔魚は26仔でありその直径は2.0～3.0mmであった。

次に、分布について既往報告と比較すると、カダヤシではほぼ変わっていなかったが、メダカでは縮小していた。カダヤシの生息が確認されなかった上流でのメダカ分布域縮小は他に要因があると考えられるが、カダヤシの生息が確認された下流でのメダカ分布域縮小はカダヤシによる駆逐が要因である可能性も否定できない。